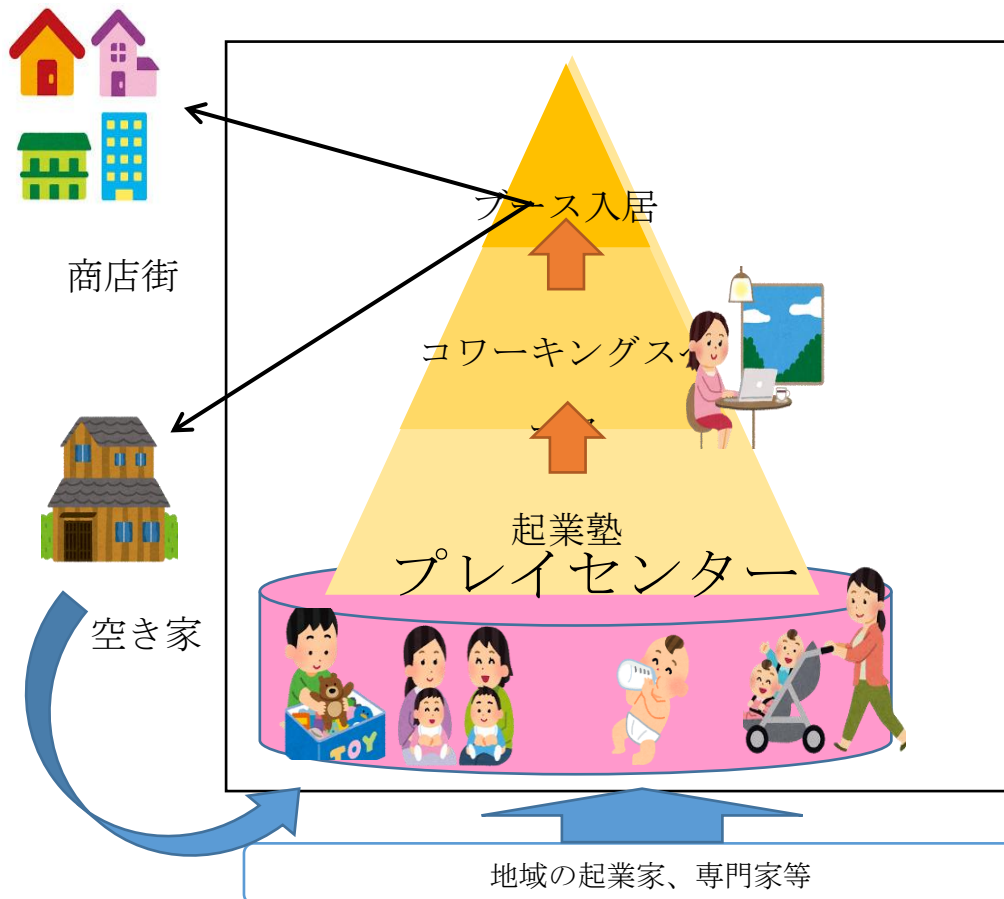


部会名	こども部会
<p>政策提言：子育て支援からこどもと女性の権利の保障へ</p> <p>(1) 乳幼児期から学齢期まで待機児童対策でなく、切れ目のない発達保障へ</p> <p>(2) 子育て支援センターからプレイセンターへ</p> <p>(3) 災害時の母子を守るための母子のための指定避難所設置</p>	
<p><b>現状と問題点</b></p> <p>(1) 生まれながらにもった特性と多様な育ちの中で発達に課題のある子どもが増えています。乳幼児期から学齢期において、早期からの切れ目のない一貫した総合的な支援が提供できる仕組みが必要です。関係機関が連携を図り、共通の視点に立って、子どもの発達段階に応じた適切な支援を総合的かつ計画的に進めていく必要があります。</p> <p>(2) 子育て支援センターは保護者に対し情報提供、交流の機会の提供、相談業務などを行っています。しかし、本来、親の養育力の向上が目的でありながら、現状は指導員が中心になって子育て支援センターを運営し、親を受け身になっています。親が主体的に活動できるようにしていくことが大切です。</p> <p>(3) 災害時において、避難所がありますが、母子のための指定避難所がありません。現在は、小学校などの避難所を母子の安全安心のためにどうすればよいのかマニュアルをつくったり、女性防災リーダーの養成を行うことを行い避難所の改善に努力をしています。熊本地震においても、授乳しているところを除かれたり、下着の洗濯物を人目にさらされたり、子どもが泣いたりすると怒鳴られたりして、母子が受けるストレスと恐怖は計り知れないものがあります。熊本では母子の精神的ストレスの解消が大きな課題をなっています。現状、すべてのひとが緊急時に避難する避難所における改善は困難な状況です。</p>	
<p><b>具体的内容</b></p> <p><b>【提言項目1】</b></p> <p>乳幼児期から学齢期まで、切れ目のない発達保障をするために、保育所と学童保育、放課後児童クラブなどをできるだけ併できるようにする。それぞれ、定員などは、利用状況に応じ、保育所と放課後児童クラブ等フレキシブルに設定できるようにする。</p> <p><b>【提言項目2】</b></p> <p>現在の子育て支援センターをプレイセンターとし、女性のためのインキュベーション施設の機能を加える。</p> <p>子育て支援センターをプレイセンターとする。たとえば、兄弟のお産で困っている親がいた場合、プレイセンターにきている仲間で、自律的に、上のこどもを預かったり、買い物のお手伝いをしたり、親同士が助け合うことができるような後方支援を行う。同時に子育て中の親が自分の好きなこと、得意なことを活かし、何かやってみたい始めたいというシーズを引き出し、消費者・利用者からプレイヤーへと意識を転換させ</p>	

るインキュベーション機能付きプレイセンターとする。子育て子育てに関し困っていることを、将来の目指す姿に転換し、自ら子育てしやすい社会にするためにはどのようなサービスが必要かを考え、小さく始めることができるように支援をしていく。このことにより、政府・行政、企業への要望や批判でなく、自ら問題解決できる人材へと成長していく。まさにひとつづくりである。



※東京都大田区大森に女性のためのインキュベーション施設があるので参考にされたい

**【提言項目3】**

母子のための指定避難所を設置する。

①保育所等を母子のための指定非難所として整備する。

②緊急時などのために、保育士の派遣システムを構築する。

熊本地震では、保育所が私設避難所として活動を行ったことで、どれだけの命が救われたのか。どれだけの心が救われたのか。計り知れない。小学校などに避難した子どもと母親の精神的ストレスや不安は今も大きな問題となっている。保育とは何か。生きることそのものである。保育者は食べること、眠ること、歩くこと、走ること、飛び跳ねること、泣くこと、笑うこと、抱きしめること、遊ぶことなど生きることに関わり添うプロである。保育士の社会的役割の重要性に注目すべきである。

長期化する避難所において必要なことはいつもの暮らしである。とびこみでくる寸劇やマジックショーではなく、「いつも一緒にいる保育者」とともに、食べながらあそび、眠りながらあそび、散歩しながら、うたいながら、はしりまわりながらあそぶ

ことこそ子どもたちには必要である。その子どもの姿をみて親も安心する。  
 生後数か月の乳児を守ることができる。母親も性的犯罪などから守ることができる。  
 保育士がいて、調理室、授乳室など確保できる保育所等を母子のための指定避難所として整備する効果は大きい。また、いざというときのために現場の保育士の応援体制をつくっておく。これらは、熊本こども女性支援ネットが「保育士たすかる派遣システム」をつくりはじめているので参考にされたい。



**必要な予算額・条件等**

**【提言項目1】**

予算は必要ない。

**【提言項目2】**

子育て支援センターの交付金と、東京都のインキュベーション施設補助金を活用する。ただし、インキュベーション補助金は2年間であるので、女性のためのインキュベーション施設にかぎり、補助金の見直しを行う。

**【提言項目3】**

保育所新設の場合は、避難所として機能させるための整備費を建設補助金に上乗せする。既存の施設は整備計画に基づき補助金を給付する。  
 保育士派遣システムは東京都郊外もしくは近隣より派遣できるようなネットワークづくりを行う。

保育所整備費用 1施設400万上乗せ、各区の協力を得て順次整備していく。

保育士派遣システム 10,000千円

**政策提言の責任者**

藤岡喜美子

公益社団法人

日本サードセクター経営者協会

一般財団法人 こども財団

**[メールアドレス]**

fujioka.kimiko@jacevo.jp

**[電話番号]**

03-3768-6000